

2019 年度 「中国 大連・東北部通信」

2019 年 12 月 10 日

駐大連北九州市経済事務所

◆所 長 尾崎 英一 ◆副所長 桑田 大輝

◆副所長 呂 俐

桑田 E-mail: fusuo Zhang@kitakyusyuu-dl.com

訪日中国人の旅行消費とデジタル通貨

今年 8 月 17 日に就航した、中国東方航空の北九州-大連直行便の PR に併せて、中国人の海外旅行における消費実態と、中国国内で話題となっているデジタル通貨関連のニュースを一部ご紹介いたします。

■北九州 - 大連の直行定期便が新規就航

今年度の第 1 回「中国 大連・東北部通信」でもご紹介しましたとおり、2019 年 8 月 17 日から中国本土への定期便としては、およそ半年ぶり（一時運休期間含む）となる北九州-大連の直行定期便が就航しました。この定期便が就航する以前は、天津航空が運航していた時期もありましたが、大連から北九州行き利用は実質、チャーター便に近い側面があったこともあり、日本国内での販売体制が整っておらず、利用者の大多数を中国人観光客に依存していたという問題点を抱えていました。

今年、北九州市と大連市は友好都市締結 40 周年を迎え、その記念事業の一環としても挙げられる本路線は、日本-中国間で最も多くの路線（日本 17 都市、週 325 便）を展開する中国東方航空が運航することになったことで、日本の出張・観光等での利用も今後、ますます拡大していくことが期待されています。

【就航当日の様子】



初便の開幕式。大連から北九州へ出発。



北九州から折返し便にて北九州市(副市长)一行が来大。

■中国人観光客における海外旅行消費額の増加

上述のように、日本人側の更なる利用拡大が期待されているところですが、路線の継続・維持のためには、相互利用が重要であり、中国人観光客による利用増加についても更なる期待が寄せられています。

その期待を後押しする話題の1つとして、中国人観光客による海外旅行消費額が7年連続で世界最大になる見込みと発表されました。今年の上半期（1月～6月）における中国人の旅行支出は約14億円に到達したと言われており、うち半数の支出先はアジア地域が占め、日本はその中でも、タイに次いで2位となりました。中国人による「爆買い」の勢いはここ数年、比較的落ち着きを見せていますが、銀聯国際（ユニオンペイ・インターナショナル）の報告によると、銀聯カードを利用した中国人の海外での消費実態は下表のようになっており、依然として買い物等での消費活動における日本人気の高さが伺えます。

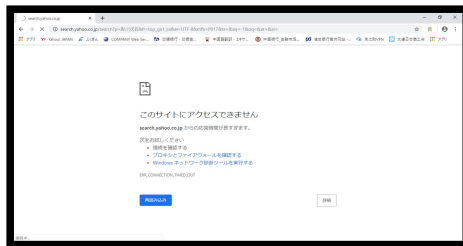
順位/カード利用先	国別	都市別
1位	日本	東京
2位	韓国	大阪
3位	タイ	シンガポール
4位	フランス	バンコク
5位	シンガポール	ソウル

KTI センター『ウィークリーニュース』No. 629、2019年12月9日発行を参考に作成

■訪中外国人に対する中国政府の対応

中国人の旅行支出増加に相まって、中国を訪れる外国人による中国国内での消費も増加してきており、2018年に中国を訪れた旅行者数は、前年比1.2%増の1億4,000万人とも言われています。

最近では堅調な中国インバウンド市場ですが、China Tourism Academy（中国旅游研究院）によると、このインバウンド市場において、リピーターの多いアメリカ・ロシア・韓国・日本からの旅行者数は伸び悩んでいると指摘しています。これらの訪中観光客からは、中国国内のインフラ水準が低い、という声が多く挙がっており、中国政府は、更なるインバウンド発展に向けて、交通・通信インフラの向上やモバイル決済サービスの緩和・開放等の政策を進めています。



☆現状、中国国内ではVPN(仮想ネットワーク)を経由しないと日本のサービスは使用できない。(画面はYahoo 検索時)

■デジタル通貨の推進

中国政府はモバイル決済サービスの開放を推し進める中、インターネット上で取引されるデジタル通貨の導入についても急ピッチで取り組んでいます。人民元がデジタル化されれば、中央銀行が発行する通貨としては世界初のデジタル法定通貨となります。今や日本を抜いて、世界第2位の経済大国となった中国が先行して、この「デジタル人民元」を導入すれば、国際金融においても本格的なデジタル化の時代を迎え、世界経済・サービスに大きな影響をもたらすのではないのでしょうか。

デジタル通貨には「ブロックチェーン」と呼ばれる仕組みが利用されており、取引情報を一定単位(ブロック)ごとに記録し、そのブロックを鎖(チェーン)のように繋げていく技術で、記録の改ざんを困難にさせるという特性を持っていることで、通貨としての信頼性を担保します。

■デジタル通貨がもたらす日本への影響

デジタル通貨は、現金を介さない電子マネーやQRコード決済といったものにすでに应用されており、2017年度の「中国 大連・東北部通信」でもご紹介したように、今や中国ではスマートフォン1つで日常の用事を済ませることができるところまで発展を遂げてきました。こうした中、訪日中国人旅行者をさらに呼び込むために、日本国内でもデジタル通貨を応用した決済機能やプラットフォームが次々と開発されており、北九州市内においても“中国発”の様々なサービスの導入や提携が進んでいます。

サービス名	呼称	サービス概要
支付宝	アリペイ	世界最大手の第三者決済。淘宝の公式決済機能でもある。 地元金融機関では、福岡銀行の「よかペイ」が対応。
微信支宝	ウィーチャットペイ	LinePayと同様の機能であるが、Lineよりリリースは早い。 LinePay加盟店でWechatPayの利用が可能。
滴滴出行	ディーディーチューシン	福岡市内で2019年6月よりサービス開始。 北九州市も同年10月よりサービス開始(第一交通産業)
携程旅行	シエチャンリユエシン	日本では「シートリップ」で有名。 アプリ内で、航空券やホテル予約が可能。
淘宝	タオバオ	中国版アマゾン。 決済ツールは、支付宝がメイン。
铁路 12306	ヤオアルサンリンリユウ	「JRおでかけネット」のようなアプリ。 高速鉄道等の事前予約・購入が可能。

“中国発”のサービスも日本で続々と提携が進む。

このように、デジタル通貨が応用されたサービスやプラットフォームの導入(キャッシュレス化)が進むことによっても、日本-中国間での人の行き来が活性化され、ひいては北九州市-大連市直行便の利用率向上にも寄与するものと考えます。

末尾ながら、私も年末年始に大連から福岡へ帰省する際には、この中国東方航空の直行便に搭乗して、北九州空港からDiDi(滴滴出行)でタクシーを呼び、最後は「よかペイ」で支払いをする予定です。

【参考】

- ・ JETRO『東方航空、8月17日から大連～北九州便の運航開始』 「ビジネス短信」 2019年8月15日
- ・ KTI センター『ウィークリーニュース』 No. 629、2019年12月9日発行
- ・ 中国旅游研究院『中国入境旅游发展报告 2019』 2019年11月29日
<http://www.ctaweb.org/html/2019-11/2019-11-29-8-46-42500.html>
- ・ 時事通信社『デジタル通貨、急ぐ中国＝経済勢力図に影響も』 「時価速報」 2019年12月9日, 4面